令和４年度アイヌ施策推進地域計画目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
札幌市	札幌市アイヌ施策実施プラン	令和５年度

１．目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率（%） (B/A)	備考
体験交流事業参加者数	150 人/年間	104 人/年間	69%	
文化体験講座参加者数	300 人/年間	236 人/年間	79%	
アイヌ文化交流センター来館者数	60,000 人/年間	28,458 人/年間	47%	
民族共生象徴空間バスツアー参加者数	1,000 人/年間	465 人/年間	47%	
アイヌ民工芸品販売会購買者数	950 人/年間	1,107 人/年間	117%	
体験プログラム参加学校数	130 校/年間	137 校/年間	105%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
体験交流事業参加者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の間には不要不急の外出を控える傾向が見受けられ、目標値の達成には至らなかった。	
文化体験講座参加者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の間には不要不急の外出を控える傾向が見受けられ、目標値の達成には至らなかった。	
アイヌ文化交流センター来館者数	新型コロナウイルス感染症の影響により、修学旅行等の団体客が少なく、また外国人観光客がほとんどいなかったことが影響し、目標値の達成には至らなかった。	
民族共生象徴空間バスツアー参加者数	町内会単位で実施し、予定団体数を上回る申込があったものの、定員を下回る人数による申し込みが複数あったほか、新型コロナウイルス対策としてバスの乗車人数を制限して催行したため、目標値の達成には至らなかった。	
アイヌ民工芸品販売会購買者数	情報発信や会場デザインの工夫、実演・ワークショップの実施といった販売会全体の魅力アップにより、目標値を達成した。	
体験プログラム参加学校数	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮したプログラムの工夫や送迎バスの運行等により、目標値を達成した。	

【札幌市アイヌ施策推進委員会委員による意見等】 （札幌市からの説明に対し、意見等はなし）

２．目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

(1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験交流事業は、令和２年度以降、数値目標を 150 人／年間としている。令和４年度はキャンセル等で最終的な参加者が目標人数を下回ったものの、定員を上回る応募があったことから、引き続き実施内容や広報の充実などを図り、数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
体験交流事業の実施を通じ、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会に加え、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出することにより、アイヌ文化やアイヌ文化の振興に対する興味・関心の喚起につながった。	

(2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
文化体験講座は、令和４年度以降、数値目標を 300 人／年間としている。令和４年度はキャンセル等で最終的な参加者が目標人数を下回ったものの、定員を上回る応募があったことから、引き続き実施内容や広報の充実等を図り、数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れる機会を創出することにより、アイヌ文化に対する理解・関心の促進につながった。	

(3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
札幌市アイヌ文化交流センターの来館者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により伸び悩んでいるものの、令和５年度において 62,000 人／年間を目指している。引き続き施設の魅力アップ等を行い、数値目標の達成に取り組む。 民族共生象徴空間バスツアー参加者数は、令和４年度以降、数値目標を 1,000 人/年間としている。実施手法や実施時期を工夫し、引き続き数値目標達成に取り組む。 アイヌ民工芸品販売会における購買者数は、令和５年度において 1,000 人/年間を目指している。令和４年度時点で目標は達成したが、引き続き出品者と連携の上、来場者のニーズを踏まえた会場の魅力アップ等を行い、数値目標の達成に取り組む。	札幌市

事業の効果
札幌市アイヌ文化交流センター：展示物の充実や展示案内の更新を行い、来館者がアイヌ文化について理解を深めるための環境がより一層充実した。 民族共生象徴空間バスツアー：アイヌの歴史や伝統文化等への理解を深める機会を創出することにより、アイヌ文化に対する興味・関心の喚起につながった。 アイヌ民工芸品販売会：都心部において気軽にアイヌ工芸品を購入する機会、生活の中で身近にアイヌ文化に触れられる機会を創出することにより、アイヌ文化に対する理解・関心の促進につながった。

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験プログラムは、令和元年度以降、数値目標を130校／年間としている。送迎バスの運行やムックリの体験機会の提供を行い、実施校は増加している状況にある。令和４年度時点で目標は達成したが、一度参加した学校が継続して参加し、かつ新規実施校も増やすことで、今後も数値目標の達成に取り組む。	札幌市

事業の効果
体験プログラムの提供により、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深めることにつながった。

３．今後の方針等

・各種事業について、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行（アフターコロナへの転換）により市民・観光客の行動範囲拡大が想定される中で、感染症予防に一定の配慮をしつつ、実施内容や広報をさらに充実させ、イベント参加者・施設来館者の増加を目指す。